



TCA

—NEWS—

Vol.15 新春号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930 富山市丸の内1丁目4番50号
富山市国際交流センター(市図書館1階)内
TEL (0764) 42-1109 FAX (0764) 42-3807
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



恭賀新禧

ゴウッ フウォ シン シィ

友好都市締結5周年記念時計台

第1回市民の翼(1986年)の訪中の時に
寄贈され、秦皇島市の中心街の広場で時
を知らせて、市民に親しまれています。

ボランティアで育てよう 富山市民国際交流協会

TOYAMA
JAPAN

21世紀に引き継ぐ

日中交流

QIN HUANG DAO
CHINA

東アジア国際交流 フェスティバル'96



- ・とき 1996年11月23日(土/祭日)
- ・ところ 富山市民プラザ4Fアンサンブルホール

日本海を挟んだ最も近い隣国である韓国、中国、ロシアとの相互理解と友好交流をめざして、東アジア国際交流フェスティバルは3回目を迎えました。

今年は、富山市と中国秦皇島市が友好都市締結15周年にあたることから、その記念行事の一つとして、「21世紀に引き継ぐ日中交流」をテーマに催されました。

女優でWILL国際文化交流センター（より住み良い世界の構築のために活動する機関）代表をつとめられる中野良子さんの特別公演は、自らの体験を通してのお話や歌でたのしく国際交流を理解し、また、今回の訪問公演を行うために愈団長以下21名で組織された秦皇島市民間芸能公演団を迎えて秦皇島市の伝統芸能の公演等、華やかな雰囲気フェスティバルはすすめられ、たのしく交流し友好を深めました。

開催あいさつ

東アジア国際交流フェスティバル'96の開会にあたって、実行委員会を代表し一言ご挨拶を申し上げます。

本フェスティバルは第1回目（平成6年度）を「環日本海4か国交流」、第2回目（平成7年度）を「韓国ウィーク」として開催してまいりました。

本年は、富山市と中国秦皇島市の友好都市締結15周年にあたりますので、中国に焦点をあて「21世紀に引き継ぐ日中交流」をテーマに、第3回東アジア国際交流フェスティバルを開催することになりました。

現在、中国とは善隣友好の精神にもとづき、経済・教育・文化・スポーツ等各種交流が行われています。

私どもは、さらに中国との人的交流を促進するため、市民が中国の現状を認識し、中国文化を理解することが必要だろうと思います。

今回は、中国との交流にご活躍されている女優・中野良子氏と秦皇島市民間芸能公演団を迎え、相互の理解と友好交流を深めたいと考えております。

最後になりますが、このフェスティバルの開催にあたり富山市民国際交流協会をはじめ関係団体、協賛企業の温かいご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

東アジア国際交流フェスティバル'96実行委員会
名誉委員長 久保田 照雄
実行委員長 窪田 菊次郎

奨学金贈呈

1995年9月、富山市民国際交流協会と秦皇島市対外友好協会の「友好親善奨学金制度」

（日本語を学ぶ人に対する奨学金）

に関する協定に基づいて、贈られました。

金井澄子当協会副会長から王増林秦皇島市対外友好協会会長へ贈呈される



日本・中国合作歌



「花は永遠に」をうたう歌 岡田睦子、増山直紀
ピアノ 椎名富美子



「飛天」
仙女の姿を踊る



女優
WILL国際交流センター代表

中野良子氏

- 特別講演
「楽しい旅・そして国際交流」
- 歌とパフォーマンス

中野良子氏

愛知県常滑市出身。女優。

79年映画「君よ憤怒の河を渉れ」が中国で大ヒット。

93年にWILL(ワールド・インスピレーション・リパティ・ラプー「より住みよい世界の構築のために活動する機関」)国際文化交流センター代表をつとめられ、外務省の派遣などで講演・トークコンサートで国際交流にご活躍中。

95年、中国秦皇島市に「中野良子希望小学校」を共同建設。同市名誉市民となる。



国際交流
中野良子先生

◀「人と人との信頼が美しい未来を築きます」……と

会場からの出演者と一緒にパフォーマンス… ▼



▲ レセプションで交流を深めて…



日本舞踊
「八木節」を踊る

秦皇島市芸能公演



あいさつをする
兪澤陽団長



踊り「ロバが走る」
若い夫婦の楽しい様子を表現している



▲「宮廷の御扇」皇室の宮女の踊り



▲ 楽器合奏

你好
ニイ ハオ



中国の歌・日本の歌「北国の春」
◀ などを独唱 ▶



秦皇島市 民間芸能公演団

兪澤陽団長一行21名。
中国秦皇島市の伝統芸能・踊り・歌・器楽などのほか、今回の訪問のための、日本の踊り「八木節」、歌「北国の春」も公演される。

友好都市往来

日中友好富山市民の 翼に参加して

国際教養委員会 島 賢司

日曜日を幾度も返上し、綿密な事前研修が行われました。社会制度が大きく異なる国、歴史も国土も人口も日本の何倍もある国、島でもないのに秦皇島と呼ばせる街（実は私の名前も島）、この未知の国への初めての訪問に色々な不安と期待が交錯しました。そして実際にこの目で中国を見てみてよく判りました。そこに住んでいる人々にも家庭があって、仕事があってそれぞれの生活がある。学校や病院があって、カラオケもあって、お巡りさんもいて……笑いや涙もある、そして皆が生き々と生活しており（富山はいきいき富山）、我々とは何も変わらないことが…。私は嬉しくなってきました。気候温暖・風光明媚、地下資源も豊富で、



▲ 歓迎夕食会



◀ 富山市からワゴン車を贈呈しました

▼ 秦皇島市から唐三彩馬をいただきました



農業・工業・商業・貿易がとても活発。歴史が長く、文化の薫りも高く、何にもまして実に親日・親富な人。15年前、先輩達は素晴らしい人達と友好都市の調印をされたものです。部門別交流会（農業・経済）で中国の人が発言されました。『富山市と秦皇島市との間に海・空の定期航（空）路が誕生すれば我々の距離は一気に縮まるのですがー。』同感です。朋友との出会いを、これからも両市民全体の共有財産として参り度いものです。参加された人達は全てなんらかの団体から推薦された活動家です。地域に戻られたらこれからも、この貴重な芽を大切にし、いっぱい実のなる大樹になるよう皆で育てていきたいものです。

友情を深めて

団長 笠島 正暉（呉羽中学校校長）

第11回富山市中学生秦皇島市親善交流訪問派遣団一行25名は、9月22日に出発し10月2日全員元気で富山に帰りました。

秦皇島市訪問の中心となる第二中学校では2日間にわたり友情を深めました。クラブ交流では民族色豊かな創作ダンス、書・絵画交流ではそのテクニックのすばらしさ、授業参観では真剣に学ぼうとする意欲的な態度が印象に残りました。

秦皇島市の皆さんの親切と誠意に中国の人たちの友人の大切にする特性とこれまでの富山市との友好の絆の強さを感じました。

また活力あふれる生活の様子からこれからの中国の発展を確信しました。

中学生の団員諸君が、この貴重な体験を生かして国際化時代に生きる日本人として成長してくれることを期待したいと思います。



▲ 第二中学校にて



◀ 記念植樹

記念碑 ▶



秦皇島市副市長来富



友好都市締結15周年記念式典出席のため黄栄副市長一行5名は9月26日から10月2日まで富山市を訪問されました。当協会では、交流会で友好を深めました。

「私と富山の国際交流」

中国語講座講師 陶 琳



月日は矢のように過ぎ
去ります。私が富山に來
てもう3年経ちました。
日本への留学は、私にと
って国際的に進んだ学問に
ふれ、専門レベルを高め
る夢を実現できる重要な
勉強の機会で、本当に人

生第二の発展のためのよい時期を迎えられたと思っ
ています。

私が、日本へ来てまず必要だと思ったのは、「郷に
入れば、郷に従え」という言葉です。それはもちろん、
自国の文化を失うことなく、自分の文化を誇りと
した上で日本の社会・文化・日本人の考え方等を学び、
日本の風土習慣に早く慣れるということです。

ですから、日本人との交流理解が非常に重要だと思
い、厳しい勉強の傍ら、県や市の国際交流の色々な事
業活動に参加してきました。その結果進んだ科学技術
や伝統文化と現代文化をうまく融合させている世界で
屈指の先進国である日本を少しずつですが、理解でき
るようになってきました。

歩んできた3年間を振り返ると、様々な方々とふれ

あい、色々な日本の文化や習慣等を教えていただき、
自分の人生に大変勉強になったと思います。

今までで、一番印象深かったのは、何よりも富山の
方々が国際化に熱心に努力している姿で、外国との理
解と親善を深めるため、交流事業の推進に積極的に取
り組んでいること、国際人として温かい心で外国人と
接することのできる市民意識の高揚に努力しているこ
とも知りました。私はその友情の深さに感激して毎日
の生活に充実感が感じられ、遣り甲斐のある留學生活
を送っています。ここに深く感謝し、厚くお礼を申し
上げます。

最後に私は、この貴重な経験を身に抱き、子々孫々
に至るまで中日友好と世界平和のために尽くしたいと
思います。 謝々！



▲ 異文化理解講座で邱新芸さんと日本舞踊を習う

江蘇省徐州市生れ。鄭州航空工業管理大學英語講師。現在、
富山大學外國人研究者。當協會中國語講座講師。

「真の国際交流とは」

会 員 松本 弘行

「日本では食事は正しく坐り、感謝の挨拶をして戴
くのヨ。残さずにたべましょうネ。」「ハイ。ただ豚肉
だけは国の習慣で食べません。」

この夏、妻と参加した富士登山ツアーに六合目小屋
で隣り合った女性二人連れの会話である。あぐらから
正座に坐り直しているのは幼い面影の残るウイグル人

▼ 山小屋にて



カナルさんだった。

遠く西域ウルムチから語学研修に來ているとのこと。
同伴者は偶然にも中学の同級生石動君の奥さんだった。
たまたま近所に下宿したカナルさんの面倒を見ている
とのことだった。おそらく献身的であろうことは初め
の会話で十分察しられる。わが子にさえ怠りがちな日
常生活のマナーを混み合う山小屋の中で教える奥さん
の姿に感動を覚えた。聞けばカナルさんが来日以来の
念願の富士登山を聞き入れ、参加費も負担されたとの

事である。装備も含めると安い額
ではなかろう。下山の平坦路で奥
さんに腕を組むカナルさんの後姿
には信頼しきった様子が痛いほど
滲んでいた。

◀ カナルさんの故郷中国の
「ウルムチ市」はどこ？
ホームパーティで交流を深めました

協会の活動や国際交流について、日頃、思うこと……

(理事の方々に寄稿をお願いしました。)



『21世紀に向けて』

大崎 和紀 理事

経済の発展が進み、国際分業が通常化し身の廻りのものの30%近くが海外で生産されたもので作られるようになりました。当然人的な交流も増え、日本人の1/6以上の人が海外渡航の経験者となり、国際交流は特別な人のみの事ではない時代が来ています。しかしながら一方では国境があり、人種問題が残り、風俗・習慣・文化の異なる人々に対する理解・交流は、日本の歴史的な閉鎖的な環境と相俟って一般的にはなかなか容易ではないように思われます。特に21世紀に向けて、国際交流を進める為には益々相手方の背景にあるものを理解・尊重して、同じ人間として交流することが一番大切なことであると考えます。もちろん、伝達手段としての共通言語を小さい頃から修得する機会を多く作ることも、行政サイドに期待するとともに、私的な立場から子供達に対して興味を持たせ、早くから学ばせるようにすることも必要でしょう。



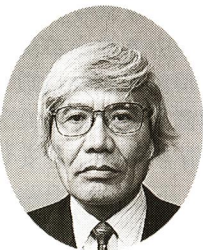
『地球は一つ』

政二 俊子 理事

1985年、ケニアのナイロビで世界女性会議があり、NGOフォーラムに参加しました。当時、南アフリカ共和国のアパルトヘイトや、イスラエルのパレスチナ問題が深刻で、平和テントでは女性の連帯が強く訴えられ、それに加えて文盲、過重労働、貧困、暴力問題などが提起されました。これらの問題解決による第三世界の人々の幸せがなければ、真の平和はないと痛感して帰りました。

また、外国への企業進出に伴う国際化対応が言われますが、その国の人達の人間的共感や信頼が得られなければ、成功はあり得ないと思います。

富山も最近、街を歩くとヒッチハイクをする外国の方々も見かけ、早くお目当ての車に巡り合えばと気にします。俄雨があればプリーズと傘に入ってください、短い道のりを会話しますが、その人は金沢に住む人で日本語を理解されており、ほっとしたことがあります。このように国際交流も普段着のままで心を開くことができます。それぞれの国には培われた文化や習慣があり、いろいろの機会を捉えて理解し、学び交流することは、国と国との隔たりをなくすることと思います。



『行き交う民族の美意識』

吉沢 孝 理事

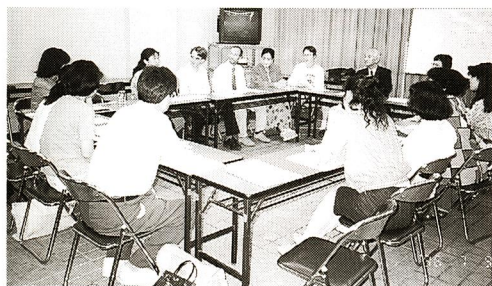
大陸から文字に技巧と精神を与え、『書芸術』として確立させた。ヨーロッパ絵画の思想から、日本画の滅亡論が叫ばれた時期もあった。アメリカに咲き誇ったポップアートに、洋画壇は揺さぶられたこともあった。

外国からの影響を大きく受けながらも、我が国の近代美術は、世界にも例をみない中央展という巨大な舞台を中心に、遅しくその時代を投影する美術シーンを展開してきた。

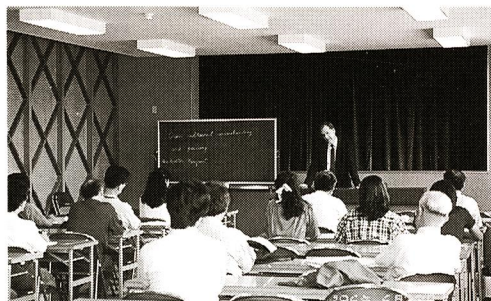
美術とは、人間個々の美意識の具現化である。したがって『国際化』という言葉には、本来馴染み切れない要素が多い。だから外国からの影響を強く受けるほど、我々は日本人であることを更に強く意識したい。そして、より日本の風土や精神性に立脚した作品を、世界に発信していくべきだと思う。

もとより美術の創造に国境などない。あえて狭義に国際化といえ、個々の国の人間の美意識を根底において作品を創りあげ、それを民族を超えて互いに刺激し感動し合うことではないだろうか。

国際教養委員会



“日本文化を英語で語ろう”
米・ダーラム教師団との合同研修



研修会「異文化理解の通訳
ガイドについて」
講師：ウォールタ・
ニューポート

ダーラム市教師訪問団との
文化交流座談会



J E T 青年との近郊探訪・富山科学文化
センター



“国際教養サロン” クラブ発足

JAT プログラムとは… JAPAN Exchange and Teaching
「語学指導等を行う外国青年招致事業」昭和62年度より外国語教育や
地域の国際交流への協力、推進を目的にスタートしたものです。

お知らせひろば

積極的に参加してみませんか！

定員になり次第、締め切らせていただきます。申し込み・問い合わせは、富山市民国際交流協会事務局（☎42-1109）

’97新春のつどい

- ・と き 平成9年2月1日(土)午後3時
- ・ところ C i C 5 F いきいき館多目的ホール
- ・定 員 外国人 50名・日本人 50名
- ・会 費 外国人 500円・日本人 3,000円

海外研修

- ・と き 平成9年2月19日から6日間
- ・訪 問 国 シンガポール・タイ
- ・参加費用 1人当り 200,000円
- ・募集人員 20名（締切は1月17日）

国際ボランティアの集い

シンポジウム&コンサート

- ・と き 平成9年1月28日(火)午後6時
- ・と ころ 富山県民会館ホール
- ・基調講演 「みんな地球に生きる人」
講師 アグネス・チャンさん
- ・パネルディスカッション
「広げよう、国際ボランティアの輪」
- ・コンサート 「笑劇的スペシャル・ライブ！」
嘉門 達夫

国内研修

～地域社会の国際交流～

- ・と き 平成9年3月8日(土)・9日(日)
- ・と ころ 呉羽ハイツ
- ・予定人員 30名
- ・会 費 7,000円
- ・研修内容 基調公演・全体会議
ワークショップ・レセプション

新会員募集に、ご協力よろしくお願いいたします。



「富山の冬は寒いわよ！」



11月10日(月) 富山大学留学生会館

“もっとよく知ろうアメリカ”



10月23日(水) 富山商工会議所ビル大ホール

富山日米協会では、設立5周年を記念してシンポジウムが開かれました。「日米の考え方の違い」や「日本人はもっと自国の文化や歴史を学ぶ必要が…」「アメリカ人のボランティア精神を学ぼう」などの意見が交わされました。

ボランティアグループ T・H・H では、第10回留学生のための生活用品バザールを開きました。生活用品を求める留学生達は「交流も楽しく、バザールが待ちどおしい」と…大にぎわいでした。

ジョギングで障害者支援



9月29日 富山城趾公園

国際チャリティー jog '96
9/30 北陸新聞
セーナー苑生ら参加
富山理解深めたボラン
ジョギングで障害者の活動支援する「国際チャリティー jog '96」が、29日、富山城趾公園で、富山理解深めたボランティアらが参加し、開催された。県内のボランティアやセーナー苑生らも参加し、約100人が参加した。

14回 富山市青年の翼 報告展 5回 富山市女性の翼 報告展



12月14日～20日 富山市役所多目的ホール

第5回富山市女性の翼 報告展 第14回富山市青年の翼 報告展

8月28日から9月8日までイギリス・ドイツ・スウェーデンの3ヶ国を訪問し、異文化交流やホームステイ等で友好の輪を広げて来た富山市女性、青年海外派遣団一行は、写真・パネル・ビデオ上映・研修発表等報告展を催しました。

主催

国際チャリティー jog '96実行委員会
※当協会も後援しました。

『第6回たかおか国際交流フェスタ』 に参加して

高岡市で開かれた、この交流会には外国人49名を含む約190名が参加。第1部では各国の習慣の違いを盛りこんだトークショーや会場参加のクイズを楽しみました。第2部の交流パーティでは音楽が始まると、たちまちダンスの輪が。



12月1日 高岡文化ホール

今年、世界中で一大ブームとなった、マカレナなどを一緒に踊り、言葉ではない交流をしました。

編集後記

- あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
- 今年1月1日から日本も国連安全保障理事会の非常任理事国に就任しました。ある紙上で「国連への協力を一層強化し、世界の平和と繁栄に、より積極的な役割を果たす」(池田外相)とありました。
- 当協会のメインイベント「東アジア国際交流フェスティバル'96」も第3回目となり、軌道にのって来ました。
- 最近の情報の中に「国際社会」「国際交流」「国際理解」「国際協力」等「国際…」がよく聞かれます。真の国際化は心の国際化からである…と、私たちでもできることから参画、参加しましょう。
- では、今年も「TCA-NEWS」発行にご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

広報委員長 岡田昌代